■小堀遠州(政一)　　大名で万能の芸術家。一級の建築・造園を数多く設計し，茶道においても将軍師範・遠州流の祖に。
こぼりえんしゅう
安土教会許可1579＝　織田信長によって戦国時代が終わってまもなく，近江国坂田郡小堀村(現・長浜市小堀町)で，縁戚の浅井氏に仕え，浅井氏滅亡後は羽柴秀長の家臣となった小堀正次(新介)の長男に生まれる。幼名は作介。

本能寺の変・1582＝ 3歳：
父から，茶の湯や書画，和歌などを学んで，教養を身につけて行く間，

豊臣秀吉関白1585＝ 6歳：郡山城に移封された秀長の家老となった父に従い，_郡山に移り，小姓となる。
秀吉太政大臣1586＝ 7歳：父が豊臣秀吉の命により長谷寺観音堂の造営奉行となる。
秀長は山上宗二を招いたり，千利休に師事するなどし，_郡山は茶の湯の盛んな土地となっていて，
刀狩海賊取締1588＝ 9歳：小姓として秀長の兄_豊臣秀吉への給仕を務めて，利休にも出会い，
また，父の勧めもあって大徳寺の春屋宗園に参禅。
秀吉全国統一1590＝11歳：
士農工商公布1591＝12歳：秀長が死去，秀保が後を継ぐ。
文禄の役・・1592＝13歳：母が死去。
方広寺大仏殿1593＝14歳：この年も父が茶会を開いている。_才能を認められて，古田織部に入門，最高峰の芸術的素養も身につけ，
関白秀次事件1594＝15歳：早くも，松屋久政の茶会に招かれる。_学芸の道に突き進んで行く。
関白秀次事件1595＝16歳：秀保も死去したため，_秀吉直参となった父に従って，伏見に移り，生涯の活動拠点になる。
26聖人殉教・1596＝17歳：_自邸の門に工夫を懲らし，古田織部を驚かす。
慶長の役・・1597＝18歳：藤堂高虎の養女を娶る。
豊臣秀吉没・1598＝19歳：_秀吉が死去すると，父とともに徳川家康に仕え，
前田利家没・1599＝20歳：自ら開いた茶会に松屋久好が参席したことで，_早くも，織部の高弟の一流の茶人として認められ，
関ヶ原の戦・1600＝21歳：父が関ヶ原の戦いでの功により備中松山城を賜り，
朱印船制始・1601＝22歳：父が伏見城内作事奉行を命ぜられる。
父が居館とした頼久寺に造成した，_愛宕山を借景とし、サツキの大刈込みが特徴的な枯山水の「頼久寺庭園」は，現在，国指定名勝に なっているほどの傑作で，作庭家としての才能も発揮，
糸割符法始・1604＝25歳：江戸参府の途次の*父が急逝。近江小室1万石余の家督を継いで人生一変，領地の管理はもちろん，徳川幕府の一官僚として，城や寺などを建設する作事奉行，さらに，幕府の行事をも統括する国奉行も命じられ，まさに，建築やイベントの総合プロデューサーとして，目の回るほどの忙しさになって行く。
江戸城完成・1606＝27歳：_後陽成院御所の作事奉行に命じられて，建築家・造園家としての活動が始まり，
家康駿府退隠1607＝28歳：
・・・・・・1608＝29歳：_駿府城普請奉行となり，修築の功により従五位下遠江守に叙任される。以後，この官名により，小堀遠州と呼ばれるようになる。

ｷﾘｽﾄ教禁止・1612＝33歳：_名古屋城天守閣作事奉行。大徳寺竜光院内に孤蓬庵を創建。
支倉常長渡欧1613＝34歳：_内裏の作事奉行。
この間のお茶会で，ワインを徳利と猪口で出したように，慣習に縛られず，なんでも受入れる美意識。
大坂夏の陣・1615＝36歳：師古田織部が非業の死。宇陀松山城の破却の際には，上司に，人手不足を訴えている。
徳川家康没・1616＝37歳：
吉原遊郭始・1617＝38歳：河内国奉行を兼任となり，大坂天満南木幡町に役宅を与えられる。_伏見城本丸書院の普請。
_一般に作事奉行の仕事は，費用の取扱い，大工以下職人たちの手配，助役大名との折衝などが主であり，建物や庭園の設計に直接関与しないが，遠州だけは例外であった。
菱垣廻船始・1619＝40歳：近江小室藩に移封され，
支倉常長帰国1620＝41歳：内裏女御御殿造営では，4人の奉行のうち遠州の担当した建物だけが，室内の内法長の上の小壁を張付仕上げとしている。_将軍秀忠の指示で，江戸城に詰めて，秀忠主催の茶会の裏方を務める。
利根川付替始1621＝42歳：「辛酉紀行」成る。
元和大殉教・1622＝43歳：近江国奉行に任ぜられる。ここに陣屋を整備し茶室も設けたが，ほとんど使わなかったらしい。
徳川家光将軍1623＝44歳：伏見奉行となり，大坂城本丸仮殿を造営。
ｲｽﾊﾟﾆｱ断交・1624＝45歳：豊後橋(観月橋)北詰に新たに奉行屋敷を設け，その後ほとんどここを役宅として暮らす。
寛永寺創建・1625＝46歳：*建築なった新奉行所には特別に茶席が構えられるなど，″わび″の利休，″へうげもの″の織部に対し，王朝文化の美意識を茶の湯に取入れ″綺麗さび″の世界を開いて，利休，織部に並ぶ，遠州流の祖になる一方，幕府と朝廷の関係を円滑にすべく，天皇の二条城行幸イベントの統括を命じられると，それまで培ってきた″雅″の感性を生かして，もともと将軍の城であった二条城を朝廷好みに改造し，二条城の庭園を造営，″生ける美術館″とも称されるほどのものにする一方，茶会を度々開いて，責任者となる重要人物と打ち合わせ，
人身売買禁止1626＝47歳：大坂城天守本丸造営奉行を拝命。_日本中の大名とその家臣も参加する行列を無事に誘導し，朝廷をもてなす豪華な本膳料理にもセンスを発揮して，寛永行幸を大成功に導き，感激した朝廷の意向で，
紫衣勅許無効1627＝48歳：_東福門院御所，
寛永禁書令・1630＝51歳：_後水尾院御所(仙洞)造営奉行を命じられる。
徳川秀忠没・1632＝53歳：_南禅寺金地院の作庭完成。
鎖国令始・・1633＝54歳：
鎖国令Ⅱ・・1634＝55歳：この年まで作事奉行として築城に携わっていた近江水口城が完成したのを祝い，_サツキの大刈り込みという手法を編み出し，幾何学的にデザインした大池寺の「蓬莱庭園」は最高傑作の一つになっている。
東照宮完成・1636＝57歳：*品川御殿作事奉行として，竣工したの御殿の御茶屋で，3代将軍徳川家光に献茶して喜ばせて，将軍茶の湯指南となり，ここからいわゆる将軍家茶道師範の称がおこる。以後，その立場を利用して，次々と茶会を開き，ようやく好きな茶会に専念できると思った矢先，
寛永飢饉始・1640＝61歳：_干害などによる寛永の飢饉となって，何万人もの餓死者を出し，都は，農地を捨てた農民で溢れる事態，
家光鎖国完成1641＝62歳：内裏造営に着工するなど，なお作事にも携わるうち，
初の高札・・1642＝63歳：_日本全国を対象に飢饉対策に乗り出した将軍家光に呼び出され，江戸出府するや，好きな茶会を中断して取組み，それまでの地元や全国各地を回って得た知見をもとに，単に年貢徴収の対象でしかなかった農民のため，支配地の田畑の状態を見回り，郷民に普請などの生業を与え，悪しき代官を処罰することなどを骨子とした農村運営法令を創案，一段落すると，自分の領地に戻り，農地に出向いて飢饉対策，
寛永飢饉終・1643＝64歳：_堰を切ったように茶会を開き，多くの大名らに法令を伝え，全国に広げて行くのである。
・・・・・・1645＝66歳：_最後の公事を終えて暇乞い，将軍家光から唐物の壺茶入を下賜され，大徳寺に庵を構えるも，
・・・・・・1647＝68歳：結局，_最期まで仕事をしていたようで，伏見奉行屋敷で，没した。
作事奉行として，33件もの大工事を担当，一年に二つ以上の工事を担当することもあった忙しさをはじめ，求められたら，何にでも応えて行き，作庭家，建築家，料理家，行政官など，どの分野でも一流で，″日本のダ・ヴィンチ″と称されるほどであるが，自らにとって，核になるのは，あくまでも茶道で，生涯で約400回茶会を開き，招いた客は述べ2,000人に及ぶと言われ，一流であった書でも，茶会の招待状などは，公文書の御家流でなく，定家流を用いた。門下には，松花堂昭乗，沢庵宗彭などがいる。

吉川弘文館人物叢書，「人づくり風土記(滋賀)」，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，Wikipedia「小堀遠州」，矢部良明「茶人・小堀遠州の正体」。NHK{先人たちの底力 知恵泉}の「小堀遠州 仕事で輝くためのススメ」で追補，